

リフレクション記述の批判的思考を促すための セルフチェックリスト開発の試み

Development of a Self-checklist to Promote Critical Thinking in Reflective Writing

政岡 祐輝^{*1}
Yuuki MASAOKA^{*1}

久保田 真一郎^{*1}
Shin-Ichiro KUBOTA^{*1}

熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学専攻^{*1}
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University^{*1}

＜あらまし＞ 看護師のリフレクション記述を深めるため、批判的思考を促すセルフ型のチェックリストを開発した。チェックリストは先行研究に基づく批判的思考の質問語幹を参考に 10 項目を設定し、形成的評価を行った。5 名の看護師に利用してもらった結果、チェックの実施と記述の深まりには乖離があることが明らかになった。リフレクションを深めるため、「具体的な再考のヒント」の追記などの方略を再検討する必要性が示唆された。
＜キーワード＞ 批判的思考、リフレクション記述、チェックリスト

1. はじめに

看護師の実践力を高めるためには、日々の臨床経験を単なる出来事として終わらせず、そこから学びを引き出すリフレクションが重要である。リフレクションは、自己の行動や判断、感情を振り返り、意味づけることで、次の実践に生かす知見を得るプロセスである。

リフレクションを効果的に行うためには、表面的な感想や出来事の羅列にとどまらず、因果関係の分析や価値判断の再考などを伴う「批判的思考 (critical thinking)」が不可欠である (Mann *et al.*, 2009)。しかし、批判的思考を伴うリフレクションには、単独での内省だけでは限界があり、いくつかの文献においても、他者からの問いかけやフィードバックが重要な支援要素とされている。一方で、実際の医療現場においては、労務管理の厳格化や多忙な業務体制、患者ケアの優先といった背景から、他者の戦略的な介入や対話を前提としたリフレクション支援を日常的に確保することは現実的に難しい場合も少なくない。こうした背景を踏まえ、本研究では、使用者が他者の支援に頼ることなく、自己のリフレクション記述を客観的かつ批判的に捉え直し、記述の質を高めることができるセルフ型のチェックリストを開発することを試みた。

2. 目的

リフレクションを深めるため、リフレクシ

ョン記述を行う看護師自身が記述内容を客観的に見直し、批判的思考を助けるチェックリストを開発することである。

3. 方法

3.1. 振り返りシートの記述項目

Gibbs (2013) やバルマン・シュッツ (2014) の提唱するリフレクションモデルを参考に、記述項目として「経験の記述」、「評価」、「分析」、「学び/教訓」、「改善計画」を設定した。

3.2. セルフチェックリスト

King, A. (1995) が提唱する批判的思考に対する質問語幹を参考に、表 1 に示すリフレクション記述を深めるためのセルフチェック項目を設定した。

3.3. 形成的評価

セルフチェック項目の改善を図るため、研修での学習活動を焦点に、リフレクション記述を行ってもらい、記述後、開発したセルフチェックリストを提示しセルフチェックを行ってもらい、チェックリストの結果を踏まえ、必要に応じて再考し記述しなおしてもらい。

チェックリスト結果、リフレクション記述の修正状況ならびに、ヒアリングを行い、チェックリストの有用性や改善点を分析する。

4. 結果

5 名の看護師がセルフチェックリストを使用した。チェックリストにおいて「NG (再考が必

表1 セルフチェック項目内容

指摘や指導された内容で指導者等が本当に伝えたかったことは何かを考えているか（意味の分析）
うまくいった／上手くいかなかった原因を分析できているか（因果関係の分析）
“なぜ”を繰り返し、その原因が解消すれば次回同じような状況に遭遇した際にも、うまくいくために必要となるうまくいく「根本原因」まで落とし込めているか（因果関係の探究）
出来事をうまく解決する「別の考え方」や「別の方法」はないか？（代替案の検討）
自分の考えた原因や分析の観点は適切か他にも別の見方や考えるポイントはないか。（多視点分析）
出来事がうまくいった／いかなかったことに、自分の知識不足や判断ミスは関係していないか（自己認識）
自分の気持ち（焦り、緊張、不安、安心など）が出来事がうまくいった／上手くいかなかったことに影響していないか（感情の影響）
「きっとこうなる」「こうするのが正しい」といった思い込みが、出来事が上手くいかなかったことに影響していないか（認知バイアスの確認）
自分が記載した学びや教訓は、なぜそんなに大事なのかを考えているか。それができていなかったら、どんな問題やリスクがあるかを考えているか（意義の自覚）
今回の学び・教訓は、他のどんな場面で応用できるか考えているか（応用可能性）

要)」と判断した項目が存在した場合でも、修正後の記述において、批判的思考に基づいた記述になっていないケースが確認された。ヒアリングにおいては、「NGであることはわかるが、どのように考えればよいかわからない」との意見が聞かれた。また、すべての項目で「OK」とされたケースもあったが、記述の内容が批判的思考が確認できないケースもあった。

5. 考察

本チェックリストにより、記述者が自身のリフレクションが批判的であるか確認することが

できた。しかしながら、「チェックできる」とことと「記述を実際に深められる」とこととの間には乖離があることが明らかとなった。特に、チェックリストを用いて「OK」と判断された記述であっても、内容を客観的に評価した際には批判的思考が十分に表れていない例が多く見られた。このことは、リフレクションの深まりには、チェック項目を表層的に確認するだけでは批判的な内省には至らないことを示唆している。また、「できているつもり」になってしまう構造的リスクが内在しており、現行のチェック内容のみでは批判的思考を促すには至らない。今回の協力者においても「NG」と判断できた点に対して、修正がほとんど加えられなかったことから、以下のような課題があると考えられる。①チェック項目の語句だけでは「どのように改善すればよいか」が見えにくいこと、②判断(OK/NG)基準が曖昧であり、使用者の主観に委ねられやすいこと、③記述の再構成に必要な具体的方略（例：言い換え例、視点転換例）が伴っていないこと。今後は、チェックリスト項目に対して、「具体的な再考のヒント」や「例示的な修正例」を併記し、使用者がセルフで改善策を思考・適用できるような補助設計の検討が必要と考える。また、ピアレビューなど、使用後の記述を客観的に再確認する方法との併用も検討していく。

参考文献

- クリス・バルマン、スー・シュッツ編、田村由美、池西悦子、津田紀子訳、(2014). 看護における反省的实践 第5版.看護の科学社, p313
- Graham Gibbs (2013) LEARNING BY DOING. OXFORD BROOKES UNIVERSITY, pp.44-56
- King, A. (1995) Designing the instructional process to enhance critical thinking across the curriculum. *Teaching of Psychology*, 22(1), 13-17
- Mann, K., Gordon, J., & MacLeod, A. (2009) Reflection and reflective practice in health professions education: a systematic review. *Advances in Health Sciences Education*, 14(4): 595-621